

委嘱状の交付

1 開会

2 教育長あいさつ

大変寒い中、そして足元の悪い中お集まりいただき誠にありがとうございます。

また皆様におかれましては、委員を快くお引き受けくださったことに深く感謝申し上げます。本日、最初の河北町立小中学校整備委員会を開けることを大変うれしく思います。

さて、本委員会は後ほど説明がありますが、河北町立小学校の整備に向けた基本方針に基づき、河北町立小中学校の施設整備について、基本構想・基本計画を策定するために必要な事項を検討するために設置されたものです。

将来の社会の担い手である子供たちにとって、より良い教育環境を構築するという基本方針が策定されました。基本方針の概要を述べますと、町内の小学校を一つに統合し、新たな校舎を整備する、併せて老朽化が進む河北中学校の校舎の整備も行う、そして施設形態としては、施設一体型の小中一貫型小学校・中学校として整備することを一つの方向性とするということです。そして、最短で令和 13 年（2031 年）の 4 月 1 日に開校することを目指すということです。

これらを何回かの会議を重ねて、基本構想・基本計画を策定していく予定であります。簡単に申し上げますと、どこに子供たちにとって最適な学校をつくるかを皆さんとともに考えてまいりたいと思っています。20 年先、30 年先、もっと長期的な展望にわたっての学校づくりであります。河北町ならではの特色ある学校づくりになればと思います。よろしくお願いいたします。

3 自己紹介

（各委員あいさつ）

【整備委員会について】

（事務局）

教育委員会では昨年 10 月に、河北町立小学校の整備に向けた基本方針を策定し、今後より具体的に基本構想・基本計画を策定していく予定。それにあたり河北町立小中学校整備委員会を設置し、関係者の皆様にご意見をお聞きしながら検討を進めていきたい。この委員会の立ち位置としては、学校整備について何かを決定していただくという

ことではなく、議論していただきたい内容を私どもの方でご提案して、皆様からご意見をいただき、基本構想・基本計画の策定を進めていきたいと考えている。

4 委員長・副委員長の選出

- ・真木 吉雄 委員長
- ・佐藤 眞潮 副委員長

5 委員長挨拶

私の専門が教育計画ということで、その関係上、県内複数箇所のあり方検討委員会に関わらせていただいております。あり方検討委員会も教育長から委嘱を受け、委員長として答申を出しました。その答申に沿って、教育委員会の方向性をしっかりした上で、今日の委員会があるのかなと思っております。

先ほど説明があった通り、あくまでも、方針に沿って、より良い方向で決定するにはどうすればよいかいうことを検討する場でございますので、皆様のお知恵をいただきながら、河北町の未来のために進めていければと思っています。よろしくお願いします。

6 協議

(1) これまでの経緯について

(事務局) 資料 No.1 の説明

(2) 河北町立小学校の整備に向けた基本方針について

(事務局) 資料 No.2 の説明

(委員から)

なぜ小中一貫校にするかということの理解が少なく、もっと説明が必要なのではないか。事務局から提案されたものに関して意見を伺うということで行くと、大きなところを変更することはできないのか。令和 13 年に統合は、もう決定事項なのか。

(事務局)

→小中一貫型小学校・中学校の整備は一つの方向性・可能性。この会議の中で、小中一貫教育や義務教育学校についての説明の後、ご協議いただきたい。あり方検討委員会では、「できるだけ早期に統合する」という文言もあり、それを受け、基本方針の中では、令和 13 年を一つの目標とした。必ずしも決定ではないが、令和 13 年を目指したいという強い意志がある。

(3) 学校整備委員会の設置について

(事務局) 資料 No.3 の説明

基本構想・基本計画のイメージをするために、計画書ができあがった場合の目次案を

載せている。第2章の内容が、具体的に皆様にご検討いただき、こちらでもご意見を伺いながら考えていきたい部分。

(事務局)

本委員会は、あくまで協議・検討し、皆さんから提案をいただく場ということであり、委員会で話し合われた内容については、毎月行われる教育委員会で教育委員の方にもご報告し、さらに議会にも提案として提示し、ご意見をいただきたいと思いますと思っている。いただいた意見は、本委員会にフィードバックさせて、基本構想・基本計画をより良いかたちで策定していくように考えている。

町民の皆さんへはホームページや広報で議論の内容などを周知させていただき、中間的な場面と最終的な場面で地区説明会を行いたい。その後パブリックコメントで最終的なご意見をいただくことを考えている。

(委員から)

あり方検討委員会では小学校のあり方についてずっと話をしてきたのに、なんだか途中から中学校の話が出てきて、最終的に小中学校のあり方を検討することになっている。そのあたりをどうとらえればよいのか。

(事務局)

→あり方検討会では、小学校のあり方について諮問をし、小学校は一つにしていくという答申をいただいた。その中で、中学校の老朽化が課題という話があった。その意見を踏まえて、小学校だけでなく中学校も含めての考え方とさせていただいた。教育委員会の方針としては、財源等の条件もあり、中学校については今のまま使っていく方法もあり得ると思っている。どのように改修をしていくかという議論も出てくるのではと思っており、小学校を一つにするということに加えて、中学校の整備も含めての整備委員会として立ち上げさせていただいた。

(委員長)

→事務局の説明から、町立学校というのは、小学校と中学校ということで、それを相対的に受け入れながら、小学校の将来を見ていくことになるのでは。もう一つは、この場は決定の場ではなく、教育委員会にかけられ、議会で審議いただき、最終的により良い方向へもっていくということで、その基盤をつくる大元がこの委員会なのだろうなと思っている。

(4) 学校事例紹介（小中一貫教育校他）について

(計画支援者) 資料No.4 の説明

【小中一貫校の事例について】【小中学校が推進される背景について】

【小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校の違いについて】

【小学校高学年の教科担任制／小中学校の円滑な接続について】

【新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について】

(委員から)

いろいろな事例を紹介していただいたが、聞きなれない言葉がありわかりにくかった。小中一貫校と義務教育学校の違いをわかりやすく教えていただければ。

(委員長)

→いわゆる義務教育学校は全く新しい学校で、小学校でも中学校でもないもう一つの学校。小学校と中学校 9 年間を一貫して教育するのが小中一貫校、中学校と高等学校を一緒にして 6 年間の教育をするのが中等教育学校。

義務教育学校は 9 年間で一つの学校なので、校長先生が一人。小中一貫校というのは、新しい学校ではなく、あくまで、小学校と中学校が別々にやって、手を取り合ってやりましょうということなので、校長先生は小学校の校長先生と中学校の校長先生の 2 人となる。

河北町で進めていこうとする小中一貫型というのは、あくまでも小学校は小学校、中学校は中学校で、教育を補足しますよという方向性で、施設一体型と施設分離型がある。河北町は一体型なので、小学校と中学校を一緒にしましょうということ。

(事務局)

→今回、本町の方で目指すかたちは、小中一貫型小学校・中学校の中学校併設型小学校・小学校併設型中学校というところで、小学校と中学校が別々にあるけれども施設は一つで、教育効果を高めていくもの。小学校には小学校の校長先生がいて、教頭先生がいて、中学校には中学校の校長先生、教頭先生がいて、職員集団も小学校の職員集団と中学校の職員集団で施設一体型にすることによって、本当に物理的に近いいい連携を図っていくというようなところで整理させていただければ。

(委員から)

今目指してるというだけであって、決定ではないのか。分離型も研究して、そちらの予算などを見て、どちらにすればよいかということを議論することができるということなのか。

(事務局)

→あくまでも方向性の一つを示しているだけであり、いろいろな可能性はあると考えている。

(委員から)

あり方検討会では、小学校の統合が話題となっていたのに、途中から中学校の話になっていたのも、実際に「あれっ？」となったものの、その後納得した。なぜかという、小学校と中学校の連携が大事だと、すごく思っているから。今後も、もっと連携することが大事だと思っているのも、小中一貫校で今は納得している。物理的に近いということが大事だと思うので、小中一貫の流れ、連携ということは、とても満足している。

(委員から)

これからは多様性がキーワードになると思う。いろいろな社会が、いろいろなかたちで変わっていかざるを得ない。変わることによって、また新たな文化が創造されていく。その中において、小学校と中学校が一つになり連携していくということは、とても大事なことだと思う。子供たちへのサービス、対応、いわゆる教員のキャパも一体型校舎で連携することによって、対応しやすくなるのではないかな。

(委員から)

町教育委員会として、なぜ義務教育学校を選択しなかったのか。

(教育長)

→あり方検討委員会でもそのような課題が検討されたところだが、まずは規模の大きさということ。大きい枠組みでの小中一貫教育は以前からあり、河北町でも小中連携教育に取り組んできた。河北町では小中一貫校を一つの方向性としており、ゆくゆくは義務教育学校が選択肢の一つに挙がってくるかもしれないが、まずは小中一貫校を研究していこうということ。

小学校、中学校の文化を大事にしたいという思いもある。小学校 6 年間でちゃんと終え節目をつけ、中学校に入るところを大事にしたい。同時に、いわゆる後ろ姿の教育がしやすいということ。小学生は中学生の姿を見て育つ、中学生は小学生の姿を見て、思いやりを大いに伸ばしてあげたいという思いがあり、小中一貫校を一つの方向性と教育委員会では考えている。

(委員長)

先ほど多様性の話があったが、学校教育が求められる多様性ということには、最近の異常気象、いわゆる防災機能というの、学校に求められるサービスといえる。そうしたときに、河北町の場合は、ハザードマップを見ると、半分以上が水没という状況の中で、これから町民の安全、児童生徒の安全を守るためにどのように学校があるべきかということも、一つの大きな問題かと考える。

(委員から)

教職員の配置とか、費用面では、どのようになるのか全然見えない。

(事務局)

→設置場所の関係もあるかと思う。大まかな国の補助の話をする、小学校あるいは中学校が複数あったものを統合した場合には、国から 1/2 程度の補助金が出る。

これを河北町に置き換えたときには、小学校統合した分には出るけれども、中学校は 1 つのままだから出ないということがある。義務教育学校になった場合は、全く新しい敷地に建設した場合に、国から 1/2 程度の補助金が出る要件になっている。人事面では、いわゆる小中一貫校だと、校長先生だけではなく、教員配置も従来通りになる。義務教育学校だと、全く別の形になる。そのあたりが大きな違いだが、これらは次回以降に話し合っていく予定。

(委員) 先ほど、いろいろな事例の写真等を見たが、わくわくした気持ちになった。

皆さんも同じような気持ちを抱いたのではないか。将来に向けて前向きな気持ちを持った話し合いの場になって欲しい。

(5) 今後のスケジュールについて

(事務局) 資料 No.5 の説明

整備委員会の今後のスケジュールとして、令和7年度にかけて合計6回程度の会議を予定している。途中で視察研修として、先進地の事例視察などもできればと考えている。次回の会議は3月28日(金)を予定している。

7 その他

(事務局)今日の会議には間に合わなかったが、様々な視点で幅広く意見をお聞きするため、当町へ移住してきた方なども今後委員として加わっていただくことを検討している。

8 閉 会